

第 38 期
事業報告書

自 令和6年4月1日 至 令和7年3月31日

株式会社 秩父開発機構

第 38 期 事 業 報 告 書

自 令和6年4月 1日

至 令和7年3月31日

当社は令和7年3月31日をもって第38期事業年度を終了いたしましたので、事業の概況並びに決算等につきまして、ご報告申し上げます。

1 事業の概況

(1) 事業の経過及び成果並びに対処すべき課題

当期は事業38年目を迎え株主の皆様をはじめ関係各位のご支援を賜る中、埼玉県からの「秩父ミュージックパーク」と「埼玉県長瀬射撃場」の指定管理業務を事業の柱に据え、秩父地域の振興に寄与するため各種事業展開を進めてまいりました。

秩父ミュージックパークにおいては来園者に快適に利用していただくための公園施設の維持管理業務として、除草や剪定などの園地管理と、音楽堂・野外ステージをはじめとする施設の維持管理、またこれら施設の利用に伴う舞台音響照明業務、更に園内全般の清掃、警備などを日常的に行ってまいりました。

継続中のモミジによる新名所づくりに向けた整備事業では、公園内で発芽したモミジの実生を採取し、約300ポットを仕立て現在育成中であります。

また、昨年度より対策を講じているナラ枯れ病については27本の感染木を伐採処分するなどの対応を行いましたが、今後も継続しての調査が必要となります。

広報活動としては、ホームページとSNSの活用、梅園や黄（紅）葉のイメージポスターの作製、テレビ・新聞などへの情報提供、地元ラジオ局「ちちぶエフエム」での提供番組などを通じ、幅広く公園PRに努めました。

利用者サービスとしては、園内案内板を見やすくするための改修作業や、地域に密着した公園づくりを目的に、地元こども園の園児とともに球根の植え付けを行った「チューリップ1万本プロジェクト」や市民との協働活動として水生生物を復活させるため、田の耕うん作業などに取組ました。

自主事業では、公園インストラクターの指導による「ホタル観賞の夕べ」「ミニ門松を作ってみよう」などの15の自然体験プログラムを実施し好評いただいております。販売関連では、これまで赤字経営であった軽食堂の営業を飲食店の専門業者へ委託することで安定的な収入確保に繋げております。また、イチヨウ並木が見頃を迎える行楽シーズンには地元の木工所と共同で木工品販売や体験などができる「秩父 木工祭」の開催に加え、キッチンカーの出店日数を賑わいによって増やすなどの対策のほか、昨年からは開始したキャンプ場も順調に営業を進めることが出来ました。

誘致イベントについては、音楽堂及び野外ステージトイレの改修工事に伴い、例年に比べ大規模イベントは減少しましたが、10月には私立恵比寿中学コンサートが野外ステージで行われ、多くのファンで賑わいました。

このような事業展開の結果、利用者満足度は90.7%となり経営目標の85%以上を達成することができました。

長瀬射撃場においては、設置目的である「射撃技能の向上と銃による事故の防止及び射撃競技の発展」の実現のため、適切な施設管理と大会の運営や自主事業を行いました。

安心安全の確保に向けた取組としては、職員及び利用者の危機管理意識の向上を図るため注意喚起の徹底を図るほか、安心して利用できる施設とするための場内整備と施設管理に努め、銃・火薬類による事故件数ゼロを継続しております。

利用状況としては、全日本スポーツ射撃競技選手権大会や関東高等学校ライフル射撃競技大会などの大きな大会が本年度は長瀬開催であったことや、自主事業である「長瀬

射撃場杯」の対象競技を拡大するなどの利用者増加策などにより、年間利用者数は前年度の7,318人を上回る8,603人となりました。

自主事業では、銃所持許可の取得に必要な教習射撃と所持許可更新に係る技能講習の実施のほか、初心者を対象とした「ビームライフル初心者講習会」などを定期的で開催しております。前述した「長瀬射撃場杯」では対象競技をこれまでの空気銃に加え小口径ライフルも対象とし、期間中には学生利用者へのドリンクサービスを行うなどの結果、昨年に比べ射撃場杯期間の学生利用者数は伸びており、効果があったものと考えます。他の取組としては、昨年に引き続き国体関東ブロック大会時にキッチンカー2店舗を2日間出店したほか、オリジナル商品では新たにミニタオルとキーホルダー販売を始めております。情報発信としてはSNSを利用して、当日の利用予約状況、天候や道路状況、地元の観光情報などを発信し利用者ニーズに対応しました。

その他の事業としては、埼玉県より狩猟者を対象とした「初級者研修会」開催業務を受託し、講義と実技からなる研修会を3回実施しております。

このような事業展開により、昨年度からは経営状況は改善したものの、射撃場指定管理業務としては赤字の状況であり、全国的な猟銃・空気銃所持許可者の減少、外国の紛争の影響による火薬・装弾の品薄と値段の高騰、また大学生の大会が令和5年度より他会場開催になったことなどによる利用者低迷が要因と考えます。

観光振興事業においては、テレビ埼玉の情報番組「マチコミ ちちぶだより」連絡協議会事務局として、番組制作に協力してまいりました。秩父地域の各自治体においては、観光情報のみならず、市町が取組む各種支援事業や各種政策など、多様な分野から情報発信と広報活動を行うためのツールとして活用いただき、全7回を放送しております。

また、地域振興活動への参画については、芝桜の丘イベントにおける観光案内事業への協力を行っております。

第37期の主な事業は次のとおりです。

1 秩父ミュージックパークの指定管理業務の受託

① 公園施設の維持管理業務

- ・除草、芝生、植栽、高木・低木、林地、花壇、菖蒲田等の園地管理
- ・音楽堂・野外ステージ等の施設維持管理業務
- ・音楽堂・野外ステージの舞台照明音響業務
- ・園内清掃、警備業務、除雪作業 など全24項目

② モミジの紅葉による新名所づくりの為の事業

- ・実生苗（秩父ミュージックパーク産モミジ）の育成
- ・植栽後のモミジ苗の手入れ作業

③ 広報活動

- ・オリジナルホームページとSNSの活用
- ・パンフレット・ポスター・チラシ作成（園内マップ、紅葉、梅園など）
- ・教育機関等と連携した広報活動（インストラクター事業の案内など）
- ・秩父ミュージックパーク連絡会議の運営による公園内関係団体との情報共有
- ・メディアを通じた情報発信（新聞、テレビなどへの情報提供）
- ・テレビ番組・映画撮影等の行為許可
- ・ちちぶエフエム 提供番組「ミュージックパークだより」の放送

④ 利便性の向上と賑わい創出事業

- ・秩父ミュージックパーク便利帳の活用
- ・車イスの設置、貸出
- ・翻訳機能を搭載したタブレット型端末の活用

- ・公園内の案内表示・掲示物の見直し
- ・雲海発生時の利用者サービス
- ・チューリップ1万本プロジェクト（地元認定こども園の児童による球根植付）
- ・田の耕うんなどの環境保全事業
- ⑤ 自主事業
 - ・第14回コーラスフェスティバルの開催
 - ・公園インストラクター事業（ホタル観賞のタペ、ミニ門松を作ってみようなど15事業）
 - ・「紅葉・黄葉」「梅まつり」ポスター・チラシ作成 PR
 - ・飲食店の委託営業
 - ・ミューズパーク産「梅シロップ」の販売
 - ・キッチンカー営業と木工祭の開催
 - ・キャンプ場の営業
 - ・観光望遠鏡の営業
- ⑥ 大規模イベント誘致
 - ・6/9 第65回 秩父宮記念ミューズの森チャレンジロードレース大会 900人
 - ・10/5 私立恵比寿中学コンサート 2公演 計4,000人 など

2 埼玉県長瀬射撃場の指定管理業務の受託

- ① 施設等の利用に関する業務
 - 利用者の受付、予約、利用案内等
- ② 施設、設備、物品の維持管理に関する業務
 - 設備維持管理、場内清掃、電子標的の整備点検、除草・植栽管理など21項目
- ③ 大会・合宿等の誘致
 - 主な射撃大会
 - ・5/18-19 第50回全日本ライフル射撃競技選手権大会（300m） 43人
 - ・5/18-19 全国春季ピストル射撃競技大会（50m、10m） 56人
 - ・6/6-9 関東高等学校ライフル射撃競技大会 332人
 - ・7/7 埼玉県猟友会大会 36人
 - ・7/13-14 全国夏季ピストル射撃競技大会（50m、10m） 59人
 - ・8/16-18 第79回国民体育大会関東ブロック大会 381人
 - ・9/4-8 JOC ジュニアオリンピックカップ 356人
 - ・10/31-11/3 全日本スポーツ射撃競技選手権大会 510人
 - ・11/15-17 関東高等学校ライフル射撃競技選抜大会 230人
 - ・11/23-24 全国秋季ピストル射撃競技大会（50m、10m） 51人
 - ・3/9-10 全国冬季ピストル射撃競技大会（50m、10m） 33人 など
- ④ 主な自主事業
 - ・教習射撃及び技能講習の実施 教習射撃13人、技能講習111人
 - ・ビームライフル初心者講習会 95人
 - ・長瀬射撃場杯の実施
 - ・銃保管業の実施
 - ・装弾及び標的の販売
 - ・Tシャツ・キーホルダーなどオリジナルグッズの販売
 - ・エアライフル空気充填サービス
 - ・猟銃等販売事業
 - ・大規模大会時のキッチンカー営業
 - ・SNSによる情報発信 など

3 観光振興事業

- ① テレビ埼玉「マチコミ ちちぶだより」情報番組連絡協議会の事務局業務

- ・秩父地域市町との連絡調整（年7回放映）
- ・番組連絡協議会の開催 など
- ② 地域振興活動への参画
 - ・芝桜の丘イベント会場における観光案内事業への協力

4 その他の事業

- ・秩父ミュージックパーク旧パー3 ゴルフコース管理業務
- ・令和6年度初級者研修会開催業務（狩猟免許取得者を対象）
- ・埼玉県長瀬射撃場環境保全業務
- ・秩父ミュージックパーク西進入路巡回点検業務 等

収支では、秩父ミュージックパークでは音楽堂の工事の影響により利用料金収入は前年に比べ減少しましたが、埼玉県からの委託料増額措置やキッチンカー営業の拡大、軽食堂の営業を業務委託とすることで経営改善を図るなど、安定した運営に努めました。長瀬射撃場においては、依然として利用者は低迷しており、継続して赤字経営ではあるものの、長瀬射撃場杯をはじめとした収益増加策などを講じ、前年からの収益改善を図ることができました。

このような結果、売上高合計2億8千331万1千円、営業損失670万3千円、経常利益398万1千円、当期純利益209万7千円となり、利益剰余金は892万3千円となっております。

今後の課題としては、令和6年度に実施された「埼玉県指定出資法人のあり方検討委員会」における報告書の結果、組織として秩父開発機構のあり方、事業として秩父ミュージックパークと埼玉県長瀬射撃場の二つの指定管理業務のあり方について提言が出されています。今後、埼玉県の担当各課の見解と併せ、改革に向けた方向性を検討していくことが挙げられます。

同じく令和6年度より実施された「埼玉県長瀬射撃場あり方検討委員会」は現在継続中であるため、今後はその結果を受けた対策が必要になると考えます。

また、長中期的には、秩父ミュージックパークにて進行中であるモミジによる観光スポット創出事業を計画的かつ着実に進め、将来的には集客策を図る中で、施設の利用率と収益の増加に繋げていきたいと考えます。

◇ 秩父ミュージックパーク



育成中のモミジ実生苗



ナラ枯れ感染木の処置



ホテル観賞の夕べ



黄葉 紅葉祭 ポスター



コーラスフェスティバル



チューリップ1万本プロジェクト球根植付



「木工祭」木工体験



キッチンカー出店

◇ 埼玉県長瀬射撃場



小口径50mバックストップ整備



小口径電子標的整備



長瀬射撃場杯告知チラシ



埼玉県猟友会大会



JOC ジュニアオリンピックカップ



全日本スポーツ射撃競技選手権



キッチンカー出店



初級者研修会（狩猟者対象）

(2) 事業成績及び財産状況の推移

期別 区分	第35期	第36期	第37期	第38期
売上高(千円)	193,083	205,554	278,934	283,311
営業利益(千円)	△2,013	△10,609	△2,672	△6,703
経常利益(千円)	△1,076	△9,229	△1,448	3,981
当期純利益(千円)	△1,291	△866	△2,703	2,097
1株当たり当期純利益(円)	△134.57	△90.26	△281.57	218.51
総資産(千円)	676,034	684,093	595,149	582,958
純資産(千円)	490,395	489,528	486,825	488,923
1株当たり純資産(円)	51,082.85	50,992.59	50,711.02	50,929.53

2 会社の概況

当期末(令和7年3月31日)の会社の概況は、次のとおりであります。

(1) 主な事業内容

- ア 秩父ミュージズパークの指定管理業務の受託
(自主事業：軽食堂及び売店事業、各種イベントの実施他)
- イ 埼玉県長瀬射撃場指定管理業務の受託
(自主事業：標的・装弾販売、教習射撃及び技能講習の実施他)
- ウ ちちぶ観光情報番組の実施

(2) 株式の状況

当期末における株式の状況は次のとおりであります。

- ア 発行可能株式の総数 34,400株
- イ 発行済株式の総数 9,600株
- ウ 当期末株主総数 107名

(3) 主な大株主

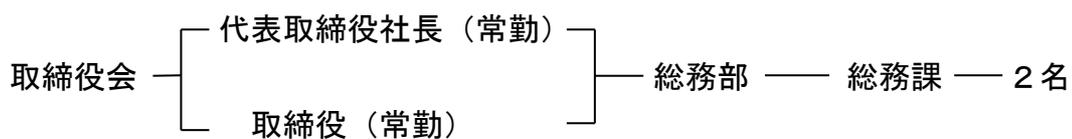
株主名	所有株式数	持株比率
埼玉県	2,460株	25.6%
西武レクリエーション(株)	960	10.0
秩父市	458	4.8
(株)埼玉りそな銀行	420	4.4
太平洋セメント(株)	400	4.2
西武建設(株)	300	3.1
(株)本郷会計	240	2.5
あいおいニッセイ同和損害保険(株)	220	2.3
秩父鉄道(株)	200	2.1
(株)武蔵野銀行	200	2.1
小鹿野町	170	1.8
損害保険ジャパン(株)	160	1.7

他に、日本瓦斯(株)ほか94社が株主であります。

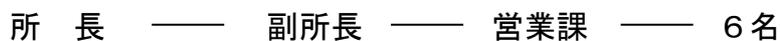
(4) 組織と従業員の状況

令和7年3月31日現在

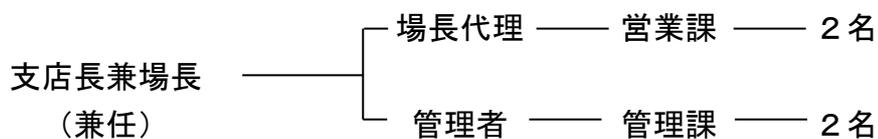
[本店]



[秩父ミュージックパーク管理事務所]



[長瀬射撃場支店]



従業員

区分	従業員数	前年比増減	平均年齢
男	7名	—	58.0
女	5名	—	48.4
計	12名	—	54.0

(5) 取締役及び監査役

令和7年3月31日現在

役職名	氏名	派遣団体等
代表取締役社長（常勤）	山口 民弥	元大滝村長・元秩父市収入役
取締役（常勤）	田代 勝三	元秩父市副市長・（一社）秩父観光協会 会長
取締役（非常勤）	西村 耕一	秩父商工会議所会頭
取締役（非常勤）	森 真太郎	小鹿野町長
取締役（非常勤）	北堀 篤	秩父市長
取締役（非常勤）	依田 龍也	西武レクリエーション(株)代表取締役社長
取締役（非常勤）	明石 勤	秩父太平洋セメント(株)代表取締役社長
取締役（非常勤）	牧野 英伸	秩父鉄道(株)代表取締役社長
取締役（非常勤）	根岸 幸司	埼玉県秩父地域振興センター所長
取締役（非常勤）	荒木 和之	(株)埼玉りそな銀行秩父支店長
監査役（非常勤）	大室 博光	前(株)武蔵野銀行秩父支店・横瀬支店 支店長
監査役（非常勤）	岩崎寿美子	埼玉県会計管理者

※在任期間順

下記の方から辞任する旨の届出があり、これに伴い登記を完了いたしました。

令和7年3月31日辞任届提出

取締役（非常勤） 中村 克 氏

貸借対照表

令和7年3月31日現在

単位：千円

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
[流動資産]		[流動負債]	
現金及び預金	450,398	買掛金	10,050
売掛金	9,735	未払費用	23,115
未収入金	1,530	預り金	2,198
棚卸資産	3,652	賞与引当金	3,064
前払費用等	501	未払法人税等	225
未収法人税	135	未払事業税等	1,528
貸倒引当金	△8	未払消費税	3,743
(流動資産合計)	(465,946)	(流動負債合計)	(43,926)
[有形固定資産]		[固定負債]	
建物付属設備	91	退職給付引当金	50,108
車両運搬具	158	(固定負債合計)	(50,108)
工具器具備品	370		
(有形固定資産合計)	(620)		
		負債の部合計	94,035
[無形固定資産]		純 資 産 の 部	
電話加入権	356	[株主資本]	
(無形固定資産合計)	(356)	資本金	480,000
		(資本金)	(480,000)
[投資その他の資産]		利益剰余金	8,923
投資有価証券	100,000	(繰越利益剰余金)	(8,923)
預託金	40		
長期繰延税金資産	15,994	(株主資本合計)	(488,923)
(投資その他の資産合計)	(116,035)		
(固定資産合計)	(117,012)	純資産の部合計	488,923
資産の部合計	582,958	負債及び純資産の部合計	582,958

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しています。

損 益 計 算 書

自 令和 6 年 4 月 1 日
至 令和 7 年 3 月 3 1 日

単位：千円

科 目	金 額
売 上 高	283,311
売 上 原 価	174,973
(売 上 総 利 益)	(108,338)
販売費及び一般管理費	115,041
(営 業 損 失)	(6,703)
受 取 利 息	364
有 価 証 券 利 息	304
雑 収 入	1,395
貸 倒 引 当 金 戻 入	9
賞 与 引 当 金 戻 入	1,187
退職給付引当金戻入	7,423
(営 業 外 収 益)	(10,684)
経 常 利 益	3,981
税 引 前 当 期 利 益	3,981
法 人 税 等	580
法 人 税 等 調 整 額	1,303
当 期 利 益	2,097

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しています。

株主資本等変動計算書

自 令和6年4月1日 至 令和7年3月31日

単位:千円

	株主資本				純資産合計
	資本金	利益剰余金		株主資本 合計	
		その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金 合計		
前期末残高	480,000	6,825	6,825	486,825	486,825
当期変動額					
当期純損益金		2,097	2,097	2,097	2,097
当期変動額合計		2,097	2,097	2,097	2,097
当期末残高	480,000	8,923	8,923	488,923	488,923

個別注記表

自 令和 6年4月 1日
至 令和 7年3月31日

I 重要な会計方針に係る事項に関する注記

1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

最終仕入原価法による原価法

2) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産 法人税法の規定による定額法

3) 引当金の計上基準

ア 貸倒引当金 売上債権、貸付金の貸倒損失に備える為、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上する。

イ 賞与引当金 従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため支給見込額に基づき計上する。

ウ 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えて、簡便法により計算された当事業年度における退職給付債務額を計上する。

4) リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっています。

5) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税抜方式によっています。

II 貸借対照表に関する注記

有形固定資産の減価償却累計額 8,482千円

III 株主資本等変動計算書に関する注記

当該事業年度の末日における発行済株式の数 9,600株

IV 税効果会計に関する注記

繰延税金資産の発生の主な原因別の内訳

(繰延税金資産)

貸倒引当金	3千円
未払賞与引当金	607千円
退職給付引当金	15,345千円
未払事業税等	466千円
欠損金	△427千円
繰延税金資産計	15,994千円

V 1株当たり情報に関する注記

1株当たり純資産額 50,929円53銭

1株当たり当期純利益 218円51銭

監査報告書

株式会社 秩父開発機構

代表取締役 山口 民 弥 様

私は、令和6年4月1日から令和7年3月31日までの第38期事業年度に係る計算書類及びその附属明細書を監査いたしました。その方法及び結果につき以下のとおり報告いたします。

なお、当会社の監査役は、定款第27条に定めるところにより、監査の範囲が会計に関するものに限定されているため、事業報告を監査する権限を有しておりません。

1. 監査の方法及びその内容

私は、取締役等から会計に関する職務の執行状況を聴取し、会計に関する重要な決裁書類等を閲覧いたしました。また、会計帳簿及びこれに関する資料を調査し、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書について検討いたしました。

2. 監査の結果

計算書類及びその附属明細書は、会社の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

令和7年 5月26日

株式会社 秩父開発機構

監査役

大塚博英



岩崎寿美子

